

令和 5 年度学校関係者評価報告書

阪南大学高等学校

令和 5 年度の学校自己評価に基づき、学校関係者評価委員の方より評価及び提言をいただきましたのでご報告いたします。

学校関係者評価委員については、同窓会長・PTA 会長・卒業生代表・学園評議員・高校事務長の 5 名の方で構成されています。

学校関係者評価委員からの評価と提言

① 学習指導・進路指導

○授業改善のために、教員同士の授業見学会の実施や積極的に研修会に参加し、教授法や技術取得に努めているが、例年満足度は低く、伸び悩んでいる。満足度を上げるために、直接、生徒に対して授業アンケートを実施してはどうかという意見があった。

○進路指導について、コースによって進路講話や進路学習に偏りがあるため、コースの特徴を活かしながら、どのコースであっても多様な入試制度に対応できるよう、対策を実施する必要があるのではないかという意見があった。

② 生徒指導・人権指導・保健指導

○校則の遵守について、三者(生徒・保護者・教職員)の差が大きい理由として、マナーに対する意識・常識の差が挙げられる。担任がホームルームや日々の学校生活の中で、校則の必要性などを着実に生徒へ伝えることが必要ではないかという意見があった。

生徒の主体性を尊重し、生徒の声を聞く場を設けたり、意見交換をするなど、三者の温度感を無くしていくように取り組んでいただきたい。そして、生徒の「納得感」を得ることが満足度向上のために最も重要であるという意見があった。

○心身の健康・悩みについて、令和 6 年度よりカウンセラーの設置をしている。生徒が充実した高校生活を送れるよう、カウンセラーと連携し、満足度向上に繋げていただきたい。

③ 行事・クラブ活動

○校外学習・修学旅行・学園祭については、三者とも満足度が高い。一方で、生徒の主体性を考えるとまだまだ改善の余地がある。生徒会部と連携し、行事ごとに生徒の意見を反映できるよう、生徒の主体性を尊重する運営を行っていくことで満足度が高まるのではないかという意見があった。

○クラブ活動について、令和 5 年度のクラブ加入率は統計を取り始めた過去 17 年間の中で最も高い数値となった。一方で、コースによって入部率に差がある。さらに満足度を上げるためには、探究特進コースの入部率を上げることや、文化系クラブの入部率を上げることが必要だという意見があった。

④ 学校運営・施設

○学校施設について、生徒の安全に配慮した整備が施されており、美観、衛生に関しても、昨年同様に高い評価を得ている。また、令和 5 年度より内装の全面リニューアル工事を行っており、ICT設備についてもリプレイスを予定している。今後も環境や充実した施設を維持していただきたい。

○学校運営について、授業参観の実施を検討してはどうかという意見があった。保護者同士の交流の場がないため、授業参観等をきっかけに交流し、保護者間だけに留まらず、教員との意見交換の場も設けていただきたいという意見があった。

以上